

第7回津別町議会臨時会『行政報告』

はじめに、誠に残念な報告ではありますが、去る11月13日、船橋市・津別町青少年交流協会顧問 小石^{みつぎ}税様のご逝去されました。故人は、永年、本町と船橋市との交流促進の中心的役割を果たされ、青少年の相互交流や交流協会の設立をはじめ、文化、スポーツ、経済など広い分野において献身的なご支援をいただいていたところで、生前中の数々のご功績に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げますとともに、安らかなご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

次に、寄附についてであります。11月20日、北見市在住の川村^{とよのぶ}豊修様より、株式会社カワムラ創立30周年を記念し、自然運動公園整備に役立てて欲しいと、100万円のご寄附をいただいたところであります。ご厚志に深く感謝を申し上げますとともに、ご趣旨に沿って有益に使用させていただく所存であります。

次に、岐阜県立森林文化アカデミー校の視察についてであります
が、9月29日、林業大学校誘致期成会加賀谷副会長とともに視察
を行いました。学校の視察を前に地元武藤鉄弘美濃市長を訪問し、
アカデミー校と平成24年に連携協定を結んだ内容について伺った
ところです。

アカデミー校では、副学長から岐阜県の全面的なバックアップに
より施設が充実し、明確な人材育成の理念のもと、自立できる林業・
林産業の担い手を輩出していることなどを伺い、北海道はドイツ型
の林業を手本にすべきとのアドバイスもいただいたところです。

現在、道立林業大学校の誘致活動を進めておりますが、多様な林
業・林産業の担い手を育成するためには、多様なフィールドが必要
であることを実感し、オホーツク地域には、それらのフィールドが
整っており、18市町村の地域特性は、学生の活躍の場の選択肢が
広がるものと考えているところです。今後とも、オールオホーツク
による誘致活動が行なえるよう協議を進めて参ります。

次に、**第3回全国木のまちサミットへの参加**についてであります
が、9月30日、10月1日の両日、高知県中土佐町において開催
された「**第3回全国木のまちサミット**」に参加しました。

本サミットは、木材利用に取り組む全国の市町村等関係者が一堂

に会し、地域材促進のための課題とその解決方策等を議論し、都市部を含む全国において、木材利用の促進と国産材自給率の向上を加速化する足掛りにしようとするものです。今回のサミットは、消費者に近い目線で木材利用に取り組んでいる方々からの講演を受け、今後とも木材の魅力を広げていく考えを共有したところです。

「第4回全国木のまちサミット」は、北海道命名150年事業である「北海道みらい事業」として、本町において平成30年10月11日、12日の両日開催することとしており、木材利用の促進を津別町の「川上から川下までの木づかい」を通じて、全国に発信する場となるよう準備を進めて参ります。

次に、阿寒摩周国立公園名称変更記念式典についてであります。10月3日、弟子屈町に於いて、関係11市町による広域観光協議会が主催し、8月8日に「摩周」を加えて改称した阿寒摩周国立公園名称変更記念式典が、関係者約400人が出席する中、盛大に開催されました。

シンポジウムでは、東京都市大学の涌井史郎特別教授が基調講演を行い、その後、「これからの阿寒摩周国立公園を考える～環境保全と経済発展の両立を目指して～」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。今回の名称変更を機に、関係市町との広域

連携を強め、国立公園と周辺エリアに新たな魅力を創出して国内外に発信し、観光客の増加による地域経済と雇用の再生が図られるよう進めて参ります。

次に、津別病院名誉院長 近藤益夫氏の離町についてであります。近藤益夫氏は、昭和44年に津別病院に赴任されて以来、永く本町の地域医療に携わり、津別病院の機能充実のため、先端医療機器の導入や医師確保にご尽力されてきました。また、町の保健、衛生、福祉分野にも積極的に関わっていただき、学校医や数多くの公職を歴任され、町民からも厚い信頼を受ける先生でありました。

このたび、9月末をもって津別病院名誉院長を退任され、10月4日、丸玉木材本社、病院関係者など多くの方々の見送りを受け離町されたところです。これまで、本町の地域医療を支えてこられたご功績に対し、改めて深く感謝を申し上げますとともに、今後とも健康に留意されご活躍されることを願うものであります。

次に、第20回津別ウッドクラフト展についてであります。今年度を最後とし、「20年間ありがとう！」と題したテーマのもと、過去2番目に多い47人、63点の作品が集まる中、10月6日に審査会を行ないました。

ウッドクラフト展は、木材工芸館と隣接する木工体験工房の利用

促進と活性化を目的に、平成10年から愛林のまちを象徴するイベントとして始まり、幅広い年齢層の木工ファンに愛されてきたところですが、回を重ねるたびに出品数と新規参加者が減少してきたことから、20年を区切りに終了することとしました。これまでご支援とご協力をいただきました関係各位に対し、深くお礼申し上げますとともに、今後におきましては、木育や森林に親しむ場を充実させながら「木のまちつべつ」をPRして参ります。

次に、**堆肥製造施設の火災**についてであります。10月10日、午前5時頃、堆肥製造施設の堆肥舎内部から出火し、屋根の一部が焼損しました。出火原因については、堆肥舎内に堆積保管していたバーク原料からの自然発火によるものとされたところです。

このため、バーク原料の適正管理を行なうよう、指定管理者である津別町農業協同組合に再発防止に向けた対策を指示したところがあります。焼損しました屋根の修繕につきましては、指定管理者の負担により今月下旬に完了する予定となっております。

町民のみなさんの財産である公共施設の管理には、細心の注意が必要であるにもかかわらず、こうした火災を発生させてしまいましたことに、深くお詫びを申し上げます。

次に、**第28回東京つべつ会総会の開催**についてであります。

10月22日、会員ほか関係者57名が出席し、東京都主婦会館エフプラザで開催されました。津別町からは鹿中議長、佐藤副議長、加賀谷林業協同組合理事長、石橋商工会会長も出席され、盛会のうちに心温まる総会となりました。

また、長い間役員を務められている佐藤相談役ほか4名の方々に對し、感謝状が贈呈されましたが、現役員の皆さま、会員の皆さまには、ふるさと津別の応援団として更なるご支援、ご協力をお願いしたところです。

次に、降雪による森林被害についてであります。10月23日、超大型で強い勢力の台風21号とサハリン方面からの低気圧からのびる前線が北海道附近を通過し、重たく湿った雪となりました。雪は、山間部で20～30cm降り積もり、落葉前のカラマツ1～3齡級の幼木を中心に倒伏、幹曲り、幹折れなど、小班単位で20～80%に及ぶ大きな被害が発生しました。現時点では、一般民有林の被害面積は384.77ha、町有林の被害面積は122.93haで、合計507.7haとなっています。

被害は全町的に発生しており、正確な被害面積と被害状況は、現在北見広域森林組合と町が連携して調査を行なっているところです。復旧対応については、関係機関と協議中であり、「北海道水産林務部

森林整備課長が別に定める「気象災害」の指定が受けられるよう取り進めているところですが、一般民有林については、所有者の意向確認が必要であることから、時間を要するものと想定しています。

また、雪害により弱った林木に病虫害の大量発生が危惧されることから、早期の対応が望ましいと林業試験場からのアドバイスを受けており、過去に例のない被害が広範囲に及んでいるため、関係機関と連携し対策を進めて参ります。

次に、津別町有林オフセット・クレジット（J-VER）購入者への感謝状の贈呈についてであります。平成28年度オフセット・クレジット（J-VER）を購入された7つの企業と団体に対し、町有林の森林づくりに貢献していただいたことに感謝の意を表し、地域材で作った木製の感謝状を贈呈しました。10月24日の贈呈式には、道内4つの企業と団体が出席し、また、道外のソニー関連の2社に対しましては、東京つべつ会の出席の折に会社を訪問し直接贈呈したところです。

今後とも、引き続き町有林の適正管理に努めますとともに、二酸化炭素排出量の削減が難しい企業や団体に対し、本制度によるクレジット販売の促進に努めて参ります。

次に、北海道地域防災マスター認定研修会の開催についてであり

ますが、11月9日、中央公民館において、津別町から25名、北見市、網走市、湧別町、雄武町から10名が参加し開催されました。

この研修会は、地域の防災リーダーの育成を目的に、北海道が各地で行っているもので、本年度、オホーツク総合振興局内では津別町を会場として開催されました。

研修会では、防災に対する心構え、気象や応急救護に関する知識などの研修のほか、避難所運営のシミュレーションを行う避難所運営ゲームが行われました。特に、このゲームでは、乳幼児、高齢者、障がい者、傷病者など様々な避難者の受入れ場所や、限られた備蓄品の利用方法を考えるもので、参加者は運営の難しさを実感しながらも解決方法を学んだところです。

今後、研修会の修了者には、それぞれの地域で防災活動、防災訓練などのリーダーとして活躍していただくことを期待するものです。

次に、津別町老人クラブ連合会創立45周年記念祝賀会の開催についてであります。11月16日、中央公民館に多くの出席者が集い開催されました。昭和47年に連合会が設立され、現在13単位クラブ434名の会員により、「健康づくり・仲間づくり・生きがいづくり」を目的に地域福祉活動が行われています。創立45周年記念誌の表紙に「歴史を紡ぐ」と書かれている通り、今後とも連合

会の更なる発展を願うものであります。

次に、平成29年度自由民主党移動政調会についてであります。11月18日、北見農協会館において、自由民主党北海道12区選挙区支部による移動政調会が行われ、津別町議会議長、津別町農業協同組合代表理事組合長とともに出席し、本町における国及び道に対する懸案事項を要望書にまとめ伝えたところです。

要望内容につきましては、「国道240号の整備促進について」「道道相生停車場線の整備促進について」「道道屈斜路津別線の整備促進について」「水道施設更新に係る補助率の拡充について」「国道240号の除排雪の拡充について」「道道の除排雪の拡充について」「過疎地域における民間病院の地方交付税における財政支援について」「林業大学校など人材育成機関のオホーツク地域への設立について」「農地崩落対策の早急な実施について」の9項目であります。

これら要望に対する回答は、それぞれ道をはじめ関係省庁と連携を図り、改善に向け知恵を出していくというものであり、特に民間病院に対する財政支援については、企業病院である津別病院が、地域医療に貢献している全国的にも例の無い状況を踏まえ、公的な扱いに繋がられるか検討したいとの回答があったところです。

今後におきましても、関係機関と連携を図りながら懸案事項の改

善に取り組んで参ります。

次に、北海道地域住宅協議会表彰（2017北の地域住宅賞）についてであります。11月16日、北見市において、平成28年度に建設した西町団地が、最高賞である「北海道知事賞」を受賞しました。これは、暖房設備に地域資源の木質ペレットを燃料とした集中暖房方式を採用し、エネルギーの地域内循環を図ったことが評価されたものであり、一昨年の旭町団地の「北海道地域住宅賞」を凌ぐものとなりました。

なお、今議会におきまして、条例改正案、一般会計・特別会計補正予算案等の議案を提出いたしますので、慎重にご審議の上、原案にご協賛賜りますようお願い申し上げます。